○委員会の審議結果（要旨）

１．大気環境（騒音、振動、粉じん等）・水環境（土砂による水の濁り）

・騒音・振動・粉じん等・土砂による水の濁りについては、概ね基準値を下回っており、津軽ダム建設工事に伴う影響はほとんど無いと判断されるが、今後も調査を継続実施する必要がある。

２．動物

○ユビナガコウモリ

・目屋ダムの仮排水路トンネルに生息していたユビナガコウモリについては、平成２１年１月に人工の生息施設（コウモリボックス）へ移転しているが、その後の調査で、冬眠期はコウモリボックスに一時的に定着するものの、冬眠期以外は、あまり定着していない状況となっている。今後、定着するまで一定の期間が必要と考えられることから、今後の状況を見守る必要がある。
また、森林性コウモリの保全についても検討する必要がある。

○ハッチョウトンボ

・平成１８年度調査では１地点で確認されているが、これは、一時的に発生したと考えられる。
平成２１年に生息確認調査を実施した結果、成虫・幼虫とも確認できない状況である。

○エゾゲンゴロウモドキ

・平成２１年に生息確認調査を実施した結果、多数の地点で生息が確認され、継続的な生息が確認された。

３．植物

○ミクリ

・平成１９年１１月に３箇所に移植し、その後の生育状況調査により、３箇所とも株数増加が確認され、良好な活着状況が確認された。

○ノダイオウ

・平成２０年１１月に３箇所に移植し、その後の生育状況調査により、１箇所は哺乳類と思われる食害を受けたが、他の２箇所は結実しており良好な活着状況となっている。

○移植対象種（工事による改変部に生育する重要種)

・ミクリ、ノダイオウを含む移植対象種については、個体の消失時期に応じて移植を実施する。
※平成２０年度調査において、新たに改変部にサルメンエビネを確認したため、移植対象種に追加する。

○監視対象種(改変部周辺及び下流河川の生育環境の変化の影響が懸念される重要種)

・平成２０年度調査において、継続生育を確認している。

４．湿地環境の保全

・湿地環境を保全することは、多様な動植物の生息環境として、重要なものであることから、湿地環境の基礎的調査も含め調査検討も行う必要がある。

５．生態系（猛禽類）

・平成２１年１月に開催した津軽ダム猛禽類検討委員会での平成２０年シーズンの調査結果を報告した。
特にクマタカでは既存の半壊した巣を人工的に補修した人工巣（補修巣）において、平成２０年シーズンに繁殖成功し、全国で２例目、東北では初めてのケース。

◎今後のフォローアップ調査計画について

・今後、試験湛水１年前までの津軽ダム環境レポートに関するフォローアップ調査計画を提案し、本委員会にて了承されました。